

第4回沼田市市民構想会議（会議概要）

- 1 日 時 平成27年8月25日（火）午後2時から午後4時15分
- 2 場 所 沼田市中心公民館 第1講義室
- 3 出席者 委員24名（欠席12名）
アドバイザー 篠田暢之氏
沼田市 副市長、総務部長、市民部長、健康福祉部長、都市建設部長
（事務局：企画課長、企画課長補佐兼企画係長）

4 会議概要

(1) 沼田市総合戦略の施策について

各委員からの主な意見

- ・ 2013年8月13日の新聞に新宿区との災害協定締結の記事が載っていた。また、板橋区とも災害協定を締結している。
近年の高温も災害の一つであると思っている。お試し住宅に対する移住者に対する支援策、玉原高原、老神の観光地との連携、新宿商店街と連携・協力がまちの活性化に繋がっていくのではないかと。
- ・ 国が示している4つの基本目標の上には、安心・安全、生きがいなど市民の様々な思いがあるのではないかとと思っている。
- ・ 各委員から出された意見や提案はすばらしいと思っている。それを全部実施することは現実的に無理がある。事業の取り組みには住民参加が必要であり、効果ある方法であるかどうかをイノベーション、組織をもって検証、チェックしていくことが必要ではないか。
- ・ 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる施策について、一番の悩みは教育費の問題である。経済的支援を望む声が多い。幼児教育については、現在、第3子が無料化になっているが、1子・2子まで保育料等の無料化を拡大していく方向を考えたらどうか。
親や本人の負担軽減を図る奨学資金の創設を検討してはどうか。奨学基金を増やすためのシステムづくりや体制整備が必要であり、沼田独自のシステムが確立すればふるさと回帰の意識にも繋がると思う。工夫してよりよい方向にもって行ってほしい。
- ・ 地方への新しいひとの流れをつくる施策について、沼田にしかないものとの発言をしたが、その中にコアとして河岸段丘等の自然を入れてほしい。

(2) 沼田市版人口ビジョンについて

各委員からの主な意見

- ・ 生産年齢人口の区切りは、今後、65歳から70歳まで伸びるのではないかと感じている。若返りの新薬の研究・準備が進められているようだ。過去の事業の見直しも必要ではないか。
若い人が集まると出生率が上がったという事例がある。
- ・ 出生率を向上させるためには、支援策だけでなく、人間関係、地域力が重要で

はないか。

コミュニケーション、地域力を高めることにより、子育てがしやすい環境を整えることが必要ではないか。

- ・ 農業の6次産業化を進めることで収益の増加、雇用の確保にも繋がっている事例がある。
- ・ 子育て環境は、大都市より地方都市の方がよい環境が整っていると感じている。生き生きとしたまちをつくるのが大事。転入者の受け入れ体制を整備し、転入者の増加に目を向ける。30代の子育て世代をターゲットに引っ越し代の助成や企業に代わって東京への通勤費の助成など、転入者に対する施策を首都圏に発信していったらどうか。

新幹線の本数が少ないので、本数を増やしてもらい、併せて上毛高原駅から市内への循環バスの本数を増やす。このような転入者に対する支援策を行ったらどうか。

- ・ 沼田の土地の価格は高いと聞いている。土地提供の手段を考えていけば移住者は増えるのではないか。
- ・ 30代子育て世代である自分の周りでは新築ブーム。小学校入学のタイミングで家を建てる人が多いことから、小学校入学時の世帯をターゲットにアピールしていったらどうか。
- ・ 子育て支援策として、0歳児から就学、学童と継続した取り組みを行っていけば、共働きの環境が整うと思う。
- ・ 定着率を高めるのは、働き場の確保であり、出生率を高めるのは支援策の充実。今後、日本全体の人口が減少していくので、増加することは考えられないので、横ばいを目指しにいかにして定着を図るかを考えていった方がよいと思う。
- ・ 人口減少は避けて通れない課題であり、このまま放置していったらという前提で問題化されている。農業の6次産業化の推進、本地域はこんにゃくの特産地である。ダイエット食品や他の食品の材料として、世界に打って出ようとしており、すでに脚光を浴びている。そうは言っても第一産業だけに特化しているのではなく、今一歩踏み込んだ産業の育成が必要ではないか。

この地域は製造業が少ないので、この業種に光をあてる市の支援策が必要ではないか。産業構造を代えていくことにより活性化が図られ、人口増加にも繋がっていくと思っている。

- ・ 転入者を取り組む施策について、沼田に来たい人にどう対応していくが必要だと思う。また、豊かな自然をどう生かしていくかも課題であると思っている。
- ・ 定年退職した人を沼田にどう呼び込むか。住宅対策も必要なことであり、出生率を上げることも大事なことである。
 - ・ メディアを活用し露出することにより、魅力をアピールしていくことが必要ではないか。
 - ・ 沼田をどう生かしていくかのきっかけは観光、若い世代に一度沼田に来てもらい、沼田の魅力を知ってもらうことが必要ではないか。そして、住宅対策や産業を起こす、産業であれば観光、農業を生かした方向にもっていく展開がよ

いのではないか。

- ・ 健幸シティぬまたをコンセプトに外部に発信していく。健康で幸せ、前向きライフ、心と体が健康、沼田公園でスロージョギングを行っている。まちぐるみで行っていけるようになればよいと思っている。

(3) その他

次回の会議は、9月29日（火）午後2時から市役所北庁舎第二・第三会議室で開催